

立命館大学大学院
2023年度実施 入学試験
博士課程前期課程

人間科学研究科 人間科学専攻

領域	入試方式	コース	実施月	専門		外国語(英語)		小論文	
				ページ	備考	ページ	備考	ページ	備考
心理学領域	一般入学試験	公認・一般	9月	P.6～		P.17～		/	/
			2月	P.27～		P.36～		/	/
	社会人入学試験	一般	9月	/	/	/	/	P.21～	
			2月	/	/	/	/	P.40～	
	社会人入学試験(協定)	一般	9月	/	/	/	/	P.21～	
			2月	/	/	/	/	P.40～	
	外国人留学生入学試験	公認・一般	9月	P.6～		/	/	P.24～	
			2月	P.27～		/	/	P.43～	
学内進学入学試験	公認・一般	7月	P.1～		/	/	/	/	
APU特別受入入学試験	一般	9月	/	/	/	/	P.21～		
		2月	/	/	/	/	P.40～		
臨床心理学領域	一般入学試験	公認・一般	9月	P.6～		P.17～		/	/
			2月	P.27～		P.36～		/	/
	社会人入学試験	一般	9月	P.6～		/	/	P.21～	
			2月	P.27～		/	/	P.40～	
	外国人留学生入学試験	公認・一般	9月	P.6～		/	/	P.24～	
			2月	P.27～		/	/	P.43～	
	学内進学入学試験	公認	7月	P.1～		/	/	/	/
	APU特別受入入学試験	一般	9月	/	/	/	/	P.21～	
2月			/	/	/	/	P.40～		
実践人間科学領域	一般入学試験	一般	9月	P.6～		P.17～		/	/
			2月	P.27～		P.36～		/	/
	社会人入学試験	一般	9月	/	/	/	/	P.21～	
			2月	/	/	/	/	P.40～	
	社会人入学試験(協定)	一般	9月	/	/	/	/	P.21～	
			2月	/	/	/	/	P.40～	
	外国人留学生入学試験	一般	9月	P.6～		/	/	P.24～	
			2月	P.27～		/	/	P.43～	
学内進学入学試験	公認・一般	7月	P.1～		/	/	/	/	
APU特別受入入学試験	一般	9月	/	/	/	/	P.21～		
		2月	/	/	/	/	P.40～		

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

立命館大学大学院
2023年度実施 入学試験
博士課程後期課程

人間科学研究科
人間科学専攻

後期課程では、筆記試験を実施していません。

問題は回収します

人間科学研究科入学試験問題

(2023年7月1日実施)

博士課程前期課程

学内進学入学試験 心理学共通

(問題用紙3枚、解答用紙2枚)

< 1時限目 45分 >

※解答用紙にも、受験番号、志望領域、志望コース、氏名を記入下さい。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

問. 心理学共通

[A] 以下の各問いについて、解答を選択肢の中から1つ選びなさい。

- (1) 古典的条件づけにおける「ブロッキング」の説明として正しいものを選びなさい。
1. 初めに CS_1 と US の対提示、および CS_2 と US の対提示を十分に行なうと、複合刺激 CS_1+CS_2 と US の対提示によって、逆に CS_1 や CS_2 への条件づけが弱くなること
 2. 複合刺激 CS_1+CS_2 と US の対提示をしても、強度の弱い方の CS には条件づけが生じないこと
 3. 初めに CS_1 と US の対提示を十分に行なった後、複合刺激 CS_1+CS_2 と US の対提示を行うと、 CS_2 には条件づけが生じないこと
 4. 条件づけ前に CS の単独提示を繰り返すと、条件づけの形成が遅れること
- (2) 以下の記憶の区分のうち、「記憶内容が言葉で表現できるか否か」によって区分されているものはどれか選びなさい。
1. 回想記憶と展望記憶
 2. エピソード記憶と意味記憶
 3. 短期記憶と長期記憶
 4. 宣言記憶と非宣言記憶
- (3) 以下の各用語の説明のうち、間違っているものを一つ選びなさい。
1. 孵化効果：解決のできない問題から一時的に離れたり忘れたりすることで、新たな洞察や創造性が生まれる現象。
 2. TOT 現象：記憶の再生成績や運動学習の遂行成績などが、学習直後より一定時間経過後の方がよくなる現象。
 3. ツァイガルニク効果：課題が未完了の場合、緊張が持続するため、課題の再生成績が完了課題よりもよくなること。
 4. スリーパー効果：情報の内容より情報源の方が忘れられやすいため、信憑性の低い情報源によるメッセージの説得性が、初めは低くても時間の経過とともに高まること。
- (4) Piaget, J. の発達段階に関する記述として、正しいとされているものを選択肢の中から1つ選びなさい。
1. 感覚運動期では、ヒトとモノとの相互作用は形成されていない。
 2. 具体的操作期では、視覚的表象機能は形成されていない。
 3. 前操作期では、アニミズム的思考がみられる。
 4. 形式的操作期にはいって、対象の永続性が獲得される。

(5) 成人期の発達を、SOC 理論から、獲得と喪失のダイナミックな過程としてとらえた研究者を選択肢の中から 1 つ選びなさい。

1. Baltes, P. B.
2. Levinson, D. J.
3. Erikson, E. H.
4. Jung, C. G.

(6) Vygotsky, L. S. の発達理論に関する以下の文章の空欄 A・B に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいとされているものを選択肢の中から 1 つ選びなさい。

Vygotsky, L. S. は、人間固有の高次精神機能は(A)にその起源があると考えて、高次精神機能は(B)として、まず現れると考えた。

- | A | B |
|----------|-------|
| 1. 社会的活動 | 精神内機能 |
| 2. 社会的活動 | 精神間機能 |
| 3. 個人的体験 | 精神内機能 |
| 4. 個人的体験 | 精神間機能 |

(7) 何らかの理由で生じた生理的覚醒の原因を、周囲の別の手がかりと結びつけて解釈する現象を選びなさい。

1. 誤帰属
2. 近接性
3. 類似性
4. プライミング

(8) 態度の構成要素として正しくないものを選びなさい。

1. 認知
2. 感情
3. 行動
4. 結果

(9) 単変量遺伝分析に用いられない指標を選びなさい。

1. 遺伝
2. 神経伝達物質
3. 共有環境
4. 非共有環境

(10) 感覚の強さは刺激の物理的刺激的強さのべき乗に比例するという精神物理学的法則を選びなさい。

1. ウェーバーの法則
2. フェヒナーの法則
3. スティーヴンスの法則
4. ヤーキーズ・ドッドソンの法則

(11) 「運動視の実験的研究」を著し、ファイ現象（仮現運動の一種）を研究してゲシュタルト心理学の基礎を築いた研究者を選びなさい。

1. Wertheimer, M.
2. Koffka, K.
3. Gibson, J. J.
4. Gregory, R. L.

(12) ある学校の A クラス（30 名）と B クラス（32 名）の 100 点満点の国語の成績の平均値に有意な差があるかどうか、を比較する時に用いる統計学的検定を選びなさい。

1. 無相関検定
2. カイ 2 乗検定
3. z 検定
4. t 検定

(13) 乳幼児の発達を母子の分離—個体化の過程ととらえ 4 つの発達段階を示したのはだれかを選びなさい。

1. Klein, M.
2. Mahler, M. S.
3. Jung, C. G.
4. Freud, A.

(14) 早発性痴呆という名称で現在の統合失調症に相当する疾患概念を示したのはだれかを選びなさい。

1. Bleuler, E.
2. Schneider, K.
3. Kraepelin, E.
4. Hecker, E.

(15) かつて三大精神病と呼ばれていた 3 つの疾患の組み合わせで正しいものはどれかを選びなさい。

1. 躁うつ病 神経症 てんかん
2. 統合失調症 神経症 てんかん
3. 統合失調症 躁うつ病 てんかん
4. 統合失調症 躁うつ病 神経症

[B] 以下の用語の中から任意の 5 個を選択し、それぞれ 50～100 字で意味をわかりやすく説明しなさい。解答欄の【 】に選択した用語を記入しなさい。順番は問わない。

- ・ 符号化特定性原理
- ・ 両耳分離聴課題
- ・ アンダーマイニング効果
- ・ ピグマリオン効果とゴーレム効果
- ・ 社会的アイデンティティ
- ・ A-B-X モデル
- ・ 恒常法
- ・ オペラント条件づけにおける強化
- ・ せん妄
- ・ セルフヘルプ・グループ

(第 2 時限 : 90 分)

(2023 年 9 月実施)

2024 年度人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

専 門

問題用紙 6 枚、解答用紙 5 枚

	ページ
問 1 「心理学共通」	2～5
問 2 「心理学専門 (心理学、心理学研究法)」	6～7
問 3 「臨床心理学専門 (心理療法、心理検査)」	8
問 4 「実践人間科学 (心理学をコアとする人間科学)」	9～11

解答する科目

【心理学領域】 公認心理師コース 一般コース	問 1 「心理学共通」、問 2 「心理学専門 (心理学、心理学研究法)」の 2 問を解答すること
【臨床心理学領域】 公認心理師コース	問 1 「心理学共通」、問 3 「臨床心理学専門 (心理療法、心理検査)」の 2 問を解答すること
【臨床心理学領域】 一般コース	問 3 「臨床心理学専門 (心理療法、心理検査)」を必ず解答し、問 1 「心理学共通」、問 2 「心理学専門 (心理学、心理学研究法)」から 1 問を選択し、解答すること
【実践人間科学領域】 一般コース	問 4 「実践人間科学 (心理学をコアとする人間科学)」を必ず解答し、問 1 「心理学共通」、問 2 「心理学専門 (心理学、心理学研究法)」、問 3 「臨床心理学専門 (心理療法、心理検査)」から 1 問を選択し、解答すること

注意事項

1. 問題冊子は入試方式・領域・コース共通です。上記の方法に従って解答してください。
2. 配布された問題用紙、解答用紙のホッチキス留めは絶対に外さないでください。
3. 試験開始後、解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入してください。
4. 問題冊子、解答用紙は全て回収します。
5. 3 問以上の解答、また指定以外の科目を解答した場合は、すべてを採点対象としません。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

問1 心理学共通

[A] 以下の各問いについて、解答を選択肢の中から1つ選びなさい。

(1) オペラント条件づけの強化スケジュールのうち、「VR スケジュール」の説明として正しいものを選びなさい。

1. 直前の強化事象から一定回数の反応がなされた場合に強化される
2. 直前の強化事象からある時間経過後の最初の反応が強化されるが、その時間が毎回不規則に変動する
3. 行動に関わらず、ある事象から一定時間が経過する度に自動的に強化される
4. 直前の強化事象から強化までに要求される反応数が毎回不規則に変動する

(2) 「意味プライミング」とほぼ同じ意味で使用される語を選びなさい。

1. 連想プライミング
2. 反復プライミング
3. 概念的プライミング
4. 直接プライミング

(3) 「カニツツアの三角形」と 関係性のない概念 を選びなさい。

1. 不可能図形
2. モーダル補完
3. 知覚的体制化
4. 主観的輪郭

(4) Erikson, E. H.の発達理論に関する記述として、正しいとされているものを選択肢の中から1つ選びなさい。なお()内はおおよその年代を指す。

1. 青年期(12-20 歳代)に直面しやすい危機としては、自律性の拡散があげられる。
2. 成人期(20-40 歳代)の発達課題としては、親密性の獲得があげられる。
3. 老年期(60 歳代-)の発達課題としては、世代性の獲得があげられる。
4. 乳児期から老年期に至るまで、6つの発達段階と課題を想定した。

(5) Baltes, P. B. が提唱した理論を表現するものとして、より適切とされているものを選択肢の中から1つ選びなさい。

1. 心理社会的発達理論
2. 認知構造発達理論
3. 心理学的発達理論
4. 生涯発達の多元論的-相互作用理論

(6) Piaget, J. の発達理論に関する以下の文章の空欄 A・B に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいとされているものを選択肢の中から1つ選びなさい。

Piaget, J. は、発達とは、「同化」と「調節」により、自身の(A)が再構築される過程であり、「同化」と「調節」が、次々にバランスのとれた状態を作り出す(B)の過程であると考えた。

- | A | B |
|---------|-----|
| 1. 環境構造 | 概念化 |
| 2. 環境構造 | 均衡化 |
| 3. 認知構造 | 概念化 |
| 4. 認知構造 | 均衡化 |

(7) 特定の役割や地位を基礎とした社会的影響を選びなさい。

1. 報酬勢力
2. 専門勢力
3. 正当勢力
4. 情報勢力

(8) S: 影響発信源の強さ、I: 影響発信源と受け手との近さ、N: 影響発信源の数としたとき、

$Imp = f(S \times I \times N)$ で表現される理論を選びなさい。

1. 社会的交換理論
2. 噂の公式
3. 社会的インパクト理論
4. 適合性理論

(9) ステレオタイプ内容理論の高能力・冷たい対象への偏見を選びなさい。

1. 誇り・賞賛
2. 嫉妬・妬み
3. 慈悲的偏見
4. 軽蔑・反感

(10) 最も古くから知られている錯視を選びなさい。

1. ミュラー=リヤー錯視
2. 月の錯視
3. エビングハウス錯視
4. アリストテレスの錯覚

(11) 4枚カード問題を考案した人物はだれか。

1. Neisser, N.
2. Loftus, E. F.
3. Wason, P. C.
4. Zimbardo, P. G.

(12) ある状況を描いた絵画を見せて、そこに描かれている人物や状況から自由に物語をつくらせ、その内容からその人のパーソナリティ特性を把握しようとする投影的方法を選びなさい。

1. MMPI
2. P-F スタディ
3. ロールシャッハテスト
4. TAT

(13) 「今・ここ」での気づきを重視し、統合を志向する人格の変容を目的としたゲッシュタルト療法を提唱したのはだれかを選びなさい。

1. Kalff, D.
2. Perls, F. S.
3. Koch, K.
4. Axline, V. M.

(14) 日本における精神医学の祖といわれ、患者の待遇改善に尽力したのはだれかを選びなさい。

1. 吉本伊信
2. 下田光造
3. 森田正馬
4. 呉秀三

(15) 認知症のうち、パーキンソン症状や幻視を伴うことが中核的特徴であるものはどれかを選びなさい。

1. レビー小体型認知症
2. アルツハイマー病
3. 血管性認知症
4. 前頭側頭型認知症

[B] 以下の用語の中から任意の 5 個を選択し、それぞれ 50～100 字で意味をわかりやすく説明しなさい。解答欄の【 】に選択した用語を記入しなさい。順番は問わない。

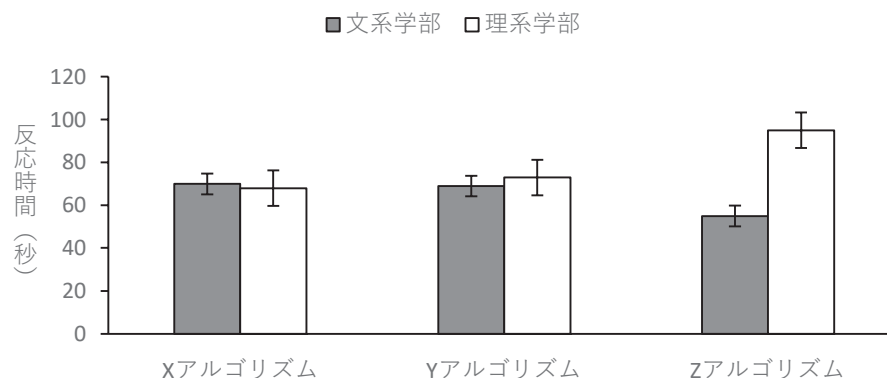
- ・ 見本合わせ課題
- ・ 代表性ヒューリスティック
- ・ 流動性知能
- ・ 内言と外言
- ・ ザッツ・ノット・オール法
- ・ 最小条件集団パラダイム
- ・ 独立性の検定
- ・ 縦断的研究
- ・ 自我障害
- ・ AT スプリット

問2 心理学専門（心理学、心理学研究法）

以下の文章を読んで設問に答えなさい。

ある AI 専門家がパズルゲームに実装できる新規の機械学習アルゴリズムを 2 つ開発した。そこである研究者がそのアルゴリズムの性能を評価する心理学実験を計画したと仮定する。実験では、ゲーム利用者の専門分野が、アルゴリズムの性能評価に影響を及ぼすと考えたため、実験では理系学部と文系学部の大学生が対象となった。ここで考案された新しいアルゴリズムは、「X アルゴリズム」と「Y アルゴリズム」と名付けられ、既存の学習アルゴリズムは、Z アルゴリズムと名付けられた。実験参加者は条件ごとに 20 名が割り当てられ、いずれか一つのアルゴリズムを搭載したパズルゲームを体験した。Figure 1 は、パズルゲームを解くのに要した時間（平均値）を各アルゴリズムと専門分野別に示したものである（エラー項は標準誤差）。

Figure 1
各アルゴリズムと専門分野ごとの反応時間



注) エラーバーは標準誤差を示す

- (1) この研究の独立変数と従属変数は、いくつかあるのか、そしてそれは何かを具体的に説明しなさい。(100 字以内)
- (2) この研究では、どのような要因配置計画を用いているか。Figure 1 を参考に詳しく説明しなさい。(100 字以内)
- (3) 各アルゴリズムの性能に対する反応時間が専門分野によって異なることが統計的な検定によって明らかになったとする。Figure 1 を参考にどのような統計学的な検定方法を用いて検討するのか、その手順も含めて詳しく書くこと。(150 字以内)

(4) この実験で一人の参加者が 3 つのアルゴリズム全てを体験する計画に変更したとする。このとき、どのような要因配置計画になるのかを述べたうえで、実験者はアルゴリズムを提示する順番についてどのような点について気を付けるべきかを説明しなさい。(150 字以内)

問3 臨床心理学専門（心理療法、心理検査）

(1) 臨床心理学（心理療法）

エビデンスに基づく医療（Evidence-Based Medicine：EBM）の考え方は、医師以外の医療従事者のみならず教育や政策など実践を重視する分野にも影響を与え、エビデンスに基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）と呼ばれるようになった。心理学においてもエビデンスに基づく心理学的実践（Evidence-Based Practice in Psychology: EBPP）と呼ばれ、心理療法の選択や心理学的支援における意思決定において重視されるようになっている。この心理学における EBP、すなわち EBPP とは何か、意思決定の3つの基本的要素の観点から詳しく説明をなさい。（300字以内）

(2) 臨床心理学（心理検査）

心理検査法は主に質問紙法、作業検査法、投影法などに分類することができる。この質問紙法には、抑うつに対する調査票である Patient Health Questionnaire-9（PHQ-9）や、ビッグファイブ理論に基づくパーソナリティ検査である Revised NEO Personality Inventory (NEO PI-R)など様々な種類がある。この質問紙法について、一般的にどのような長所、短所があるか。説明をなさい。（300字以内）

問4 実践人間科学専門（心理学をコアとする人間科学）

次の文章は哲学者の鶴見俊輔さんが徳永進医師（2001年より鳥取市内にホスピスケアの野の花診療所を開設）と対談をしたなかの、徳永医師の発言だけを抜き出したものである。さらに鶴見さんが「対談の後、考えた」と題して記した文章の一部である。問いに答えなさい。引用は、鶴見俊輔編著『新しい風土記―鶴見俊輔座談』（朝日新書、2010年、37-52頁）より。

徳永 医師になって三二年。病院の勤務医をしているときは年に四〇人～五〇人の患者さんをお見送りしました。一九床の野の花診療所では、一年間に一〇〇人くらいが亡くなっています。

死を覚悟した患者さん、死はあつてはならぬ家族、安らかな死をと思う医師、看護師。そこでのコミュニケーションをどうするかというのは難しい問題です。

徳永 野の花診療所では死を前にした患者さんに何かしたいことを尋ねて、実現するようにお手伝いしています。「たんぼの土を踏みたい」「焼き肉を食べたい」「空を見たい」「道を歩いてみたい」……。

生きているときは、日常の暮らしより理想や主義主張、仕事、金もうけが大事ですが、死を前にすると価値が逆転するんですね。ありふれた日常の暮らしが生命の根本だとわかる。今の社会は主義主張の方が肥大化しすぎているから、修正する必要がありますね。

徳永 ベルトコンベアーに乗った人生はつまらない、と死ぬときにわかるんです。それでは遅いんだけどね。ところが、例えば好きな山登りを存分にやった人は「死の野郎がもうちょっと遅く来たらいいのに。でも山登りもいっぱいしたし、しょうがないかな」と、どこかで手を打つ。死と取引できたりするんですね。だけど、ベルトコンベアー人生では取引できるものがないので、死んではならない、死は悪で、遠くにおくもの、となるんです。……(略)……病気の早期発見や治療法はありがたいのですが、逆に「あきらめていく力」が減っているように感じます。しょせん、死は来るよなあと思うのは、多忙な医者への傲慢ですかね。

徳永 勤務医時代のことです。死が避けられないがん末期の患者に、いやもう亡くなってしまったがん末期の患者に猛烈な心臓マッサージを懸命にしている人がいたんです。息子で、救命救急士だったんです。おやじに俺がしてやれるのはこれだけだといって続けている。死後、一時間近く続け、心臓マッサージはやまない。看護師の「お父さん、よくがんばられましたね」という一言で、ようやく息子はやめました。

がん末期には本格的なマッサージはしないという流れができていて、あり得ない光景だと思っていたんです。でも今思えば、そこには、違う光景があったんですね。

長年治療の現場にいと、いろいろなマニュアルが出てきます。昔は、がんは本人にいうな、といわれた。今はインフォームド・コンセント（説明にもとづく同意）、DNR（蘇生措置をしないこと）……。海外などからマニュアルが持ち込まれるたびに、国は指

導をとの声が出ます。しかし、医療の現場は矛盾だらけなんです。マニュアルにないことが意味を持つ。患者、家族は間違わない。間違うのはマニュアルを持つ医療者です。

徳永 矛盾はすべてに起きるものです。正義がどちらにあるか決めつけてはいけないんです。鶴見さんが書いたものから伝わる「押しつけない、抑えつけない、決めつけない、美化しない」でなければ、と日々感じています。

今、医療も患者の意思を尊重するなどよくなってきてはいますが、これがよいからこうしななければならないと、型にはまって閉ざされています。医療も教育もマニュアルが現場に下りてくるときにはそうなっているんです。現場では、その画一化からはみだす「その他」が必要なのに。

徳永 私が医者になったころ、自宅で亡くなる人と病院で亡くなる人は半々でした。今、自宅で亡くなる人は一割程度なんです。自宅か病院かではなく、両方を行き来できる死があっていいと思う。できれば、不自由になっても弁当を配達してくれる「国民食堂」を開いて、お年寄りが一人で暮らせるまちにして、治療共同体をつくりたい。「その他」というのは今、はみ出していく者が作り出すしかないのでしょうか。

．．．．(略)．．．．

徳永 死亡診断書に死亡場所として記入する場合は病院、診療所、老人施設が多い。その他の場所もあるのに。現代は死の迎え方さえ画一化されてしまっています。

長く農業をしていた男性患者さんが入院していて、「最後にもう一度家に帰る」というので、迎えに来た息子さんらと一緒に帰ったことがあります。雪の深い山の家で、「この雪を見てみい」という表情は、診療所での患者の顔とまったく違っていて、人間としての誇りさえ感じられました。

診療所に戻った男性はとてもしゃんと落ち着いて最後を迎え、息子が山の水をガーゼに含ませて口をしめらせました。誇りを持った表情で死を迎えられたらと思いますね。

鶴見俊輔「対談の後、考えた-死に臨む人の言葉をくみ取る」(一部)

戦前、私はニューヨークでヘレン・ケラー(1880~1968)に会った。私が大学生であると知ると、「私は大学でたくさんのお話を学んだが、そのあとたくさん、学びほぐさなければならなかった」といった。学び(ラーン)、のちに学びほぐす(アンラーン)。「アンラーン」ということばは初めて聞いたが、意味はわかった。型通りにセーターを編み、ほどいて元の毛糸に戻して自分の体に合わせて編みなおすという情景が想像された。

大学で学ぶ知識はむしろ必要だ。しかし覚えただけでは役に立たない。それを学びほぐしたものが血となり肉となる。

徳永は臨床の場にいることによって④、「アンラーン」した医者である。アンラーンの必要性はもっと考えられてよい。

(1) 下線①について。臨床の場にいるからこそアンラーンできたという鶴見さんの考えの根拠について徳永医師の発言をもとに考察し、アンラーンが実践人間科学の研究にとって持つ意義についても書きなさい。(600字以内)

問題は回収します

(第1時限：60分)

(2023年9月実施)

2024年度人間科学研究科入学試験問題 博士課程前期課程

外国語

問題用紙3枚、解答用紙2枚

<一般入学試験>

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

次の英文を読み、下の問題に答えなさい。

In 1982, three psychiatrists warned of a new concern, which they named Space Invaders Obsession. They had observed three men in their 20's and 30's whose time spent playing the popular arcade game was undermining their personal relationships. Mental health professionals worldwide noted similar patterns in their clients for the next several decades.

As a result of these reports and accompanying research, the World Health Organization added "Gaming Disorder" to the list of recognized health conditions in 2019. Although this inclusion was controversial, it reflected a growing understanding of the harm which video games can cause.

Many popular video games are intentionally designed to be habit-forming. Psychologists at major game studios frequently replicate strategies from the gambling and retail industries to ensure that players keep coming back.

For example, people are easily fooled into believing that they were very close to winning a game of chance. When McDonald's releases Monopoly pieces, customers must complete a set of three tokens to win a prize. Random tokens accompany many of the food items. Anyone who acquires all three could win a car, one million dollars, or other sizable prizes. For the biggest prizes, McDonald's prints a flood of the first two tokens and only a few of the third.

This means that, in practice, the prize would go to whomever found the third, rare token. However, consumers who had gathered the first two tokens in the set assumed that they were close to winning and therefore were motivated to continue buying McDonald's food. They were not close to winning, but they felt they were.

Slot machines also use this strategy; the first two of the spinning wheels usually contain many iterations of the winning icons, but the third has very few. This results in many "near misses," which excite us and make us more likely to keep playing. If all three wheels were distributed evenly, the game would not be as thrilling.

Video games use similar mechanics. For example, on-screen roulette wheels often do not actually represent the game's programming. When players spin a virtual wheel, the animation is likely to show the needle almost lining up with a winning segment. In reality, the game simply selects a random number, decides that the player has lost, then plays an exciting animation to convince them that they were very close to winning. This keeps players coming back.

The "near miss" is just one of many strategies developers use to keep players engaged. Others include:

Chasing: "You just lost some money; you should keep playing to get it back."

Entrapment: "You might be about to win. If you leave, you could miss a huge reward."

Fear of missing out: "This special helmet is only available for the next three days," or, "This deal only lasts for two more hours."

Exclusivity: “We only produced 10,000 of this cool, golden sword; you will miss it if you don’t buy it now.”

Although most consumers are aware of these tricks, they influence our decisions without our conscious knowledge or consent. This is especially true for children and adolescents.

Our brains do not finish developing until around age 30. Because of this, young people’s more pliable brains are particularly susceptible to the gaming industry’s tricks. In fact, studies suggest that playing fast-paced video games can actually change our brains’ structure. Several studies have found that people who play internet games have less gray matter*1 in regions of the brain responsible for impulse control, attention, emotional regulation, among others.

Critics of these studies note that they are correlative, not causal. They argue that the studies have not demonstrated that the video games caused these changes, only that these changes are observed in people who play games. People with less self-control, ability to focus attention, regulate emotions, etc. might simply be more drawn to video games than those with more of each.

These strategies sometimes cost players more money than they can afford. More than 95 percent of players never spend money on optional purchases. However, the players who do spend money on otherwise free games spend so much that they subsidize the game for everyone else. Developers compete for these “whales”—an industry term for gamers who spend the most money on free-to-play games.

Some whales are wealthy enough that they can easily afford to spend a few thousand dollars on a hobby. However, the allure of in-game purchases is so strong that some choose to buy items in a video game instead of paying rent or buying food.

As a result of these reports, video game overuse or addiction has become a major concern for many organizations and countries. South Korea considers internet addiction to be the most significant health problem for young people. Some governments have proposed or made sweeping changes to protect children from games. China’s government banned all minors*2 from playing video games on weekdays and restricted play to three hours per day on weekends. American Senators Josh Hawley and Chris Lee have both proposed legislation banning children from accessing randomized rewards for purchases within games. Several countries have already enacted similar laws.

In short, video games have a unique allure. Psychologists and game developers use proven strategies from consumer psychology research to augment their intrinsic appeal, which makes them difficult to turn off. Some gamers report that they cannot put the controller down, even when the games cause them significant harm. Should it not, therefore, be considered an addiction?

*1 gray matter:灰白質

*2 minors:未成年者

Fishman, A. (2023). The argument for video game addiction: Some research suggests video games can be addictive. *Psychology Today*, Retrieved from <https://www.psychologytoday.com/intl/blog/video-game-health/202307/the-argument-for-video-game-addiction> から改変して出題

問1 ゲームや景品におけるニアミスとはどのような効果か。文中の例を使って 300 字以内で説明しなさい。

問2 ゲーム脳に関する研究への批判として、これまで何が論じられてきたのか。文中の例を使って 300 字以内で説明しなさい。

問3 ゲーム禁止にかかわる法律や規制に関して、米国と諸外国とで違いがあるのはどうしてか。300 字以内で説明しなさい。

問題は回収します

(第1時限：60分)

(2023年9月実施)

2024年度人間科学研究科入学試験問題 博士課程前期課程

小論文

問題用紙2枚、解答用紙3枚

<社会人入学試験、社会人入学試験（協定）>

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

この3年間、コロナ禍で在宅勤務が推奨され、子どもたちも休校期間中はステイホームとなりました。同居家族と長い時間、一緒に過ごした人は多いでしょう。離れて暮らす家族や親類と長期間会えなかったという人も。家族の関係は変わったのでしょうか。

■ 家事・育児、男性の関わり増 聖心女子大学教授・平井美佳さん

日本では以前から、父親の家事や育児への関わりが少ないと指摘されてきました。コロナ禍でこうした状況に変化はあるのか。1度目の緊急事態宣言が解除されてから3カ月が経った2020年8月下旬、乳幼児がいて、正規雇用で働く父親約600人を対象に、家庭への関与や働き方などについてウェブ調査をしました。

緊急事態宣言で政府が不要不急の外出を自粛するよう要請したことなどにより、大企業に勤めるなど恵まれた条件で働く一部の人のみに限られていたものの、在宅勤務をする人は増えました。調査では、対象者全体で家族への関与の程度が高まっていたのですが、とりわけ在宅勤務が増えた人で顕著でした。また、コロナ禍以前よりも積極的に家族や仕事に関わった男性ほど、家庭や仕事への満足度が上がっていました。

コロナ禍の前後で子育てや家族についての考え方や関わり方が変わったかを聞いたところ、「昼食を一緒に食べたり、子どもと遊んだりする時間が一気に増えた。私が家事をする時間も長くなった」として、妻も喜んでいるという回答が寄せられました。「子育てに関わる時間が増えて大変さを実感し、出勤時なるべく早く帰ろうと思うようになった」といった回答もありました。

コロナ禍前、長時間労働など働き方の問題で、家族に関わりたいけれど関われない、という人は多くいたと思います。半ば強制的にですが、在宅勤務ができるようになったのは、こうした男性にとって良い機会になったのではないのでしょうか。

ただ、この調査はあくまで男性の自己報告に基づいており、夫婦間で認識にずれがある可能性があります。実際は分担に偏りがあるのに、男性はやったつもりになっている、ということもあり得る。また、「自分のやり方でキッチンを使いたいので、夫が勝手に調理器具を移動させるのが嫌」というように、夫婦間の調整が必要なケースもあるのではないかと考えています。

認識のずれをどこに感じるかは、それぞれの性別役割分業意識の違いなども含めて、個人によってかなり異なります。ぶつかり合い、関係が崩れてしまうこともある。それを避けるには、ネガティブなことも、うれしいことも、お互いの気持ちを共有し、応答的にやりとりして受け止め合うのが理想的ですが、なかなか難しいとも感じています。

最近では社会状況が変わり、在宅勤務から出社に戻そうという企業も多くあります。子育ての大変さと喜びをともに味わい、思い出を共有する。在宅勤務で父親の関わりが増えたことが、夫婦の関係にうまく働いた家庭にとっては、元に戻ってしまうのはとても残念なことです。そうした経験者に「働き方を変えていくべきだ」と声を上げてもらいたいと思います。

一方で、家族だけに様々なものを任せすぎている社会には問題を感じています。「家族」

という枠組みの中に閉じ込められ妻子が暴力を振るわれたり、子どもが給食で食いつないだりしている家庭もある。国や社会でもっと子育てなどのケアの役割を分担していく必要があります。

ケアはスキルがなくてもできる、無償労働であるという前提を変える必要があるでしょう。(聞き手・富田洸平)

出典：平井美佳「父親の家事・育児への関わり コロナ禍でどう変わった？」

(朝日新聞 2023年6月25日)

- (1) 本文の調査から、コロナ禍で父親が家事や育児にどう関わるようになったといえるか、要約しなさい。(300字以内)
- (2) 日本の父親の家庭への関与や働き方に関してどのような課題があるか、そしてそれを解決するためには何が必要かを、本文と関わらせて記述しなさい。(900字以内)

問題は回収します

(第1時限：60分)

(2023年9月実施)

2024年度人間科学研究科入学試験問題 博士課程前期課程

小論文

問題用紙2枚、解答用紙2枚

＜外国人留学生入学試験＞

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

この3年間、コロナ禍で在宅勤務が推奨され、子どもたちも休校期間中はステイホームとなりました。同居家族と長い時間、一緒に過ごした人は多いでしょう。離れて暮らす家族や親類と長期間会えなかったという人も。家族の関係は変わったのでしょうか。

■ 家事・育児、男性の関わり増 聖心女子大学教授・平井美佳さん

日本では以前から、父親の家事や育児への関わりが少ないと指摘されてきました。コロナ禍でこうした状況に変化はあるのか。1度目の緊急事態宣言が解除されてから3カ月が経った2020年8月下旬、乳幼児がいて、正規雇用で働く父親約600人を対象に、家庭への関与や働き方などについてウェブ調査をしました。

緊急事態宣言で政府が不要不急の外出を自粛するよう要請したことなどにより、大企業に勤めるなど恵まれた条件で働く一部の人のみに限られていたものの、在宅勤務をする人は増えました。調査では、対象者全体で家族への関与の程度が高まっていましたが、とりわけ在宅勤務が増えた人で顕著でした。また、コロナ禍以前よりも積極的に家族や仕事に関わった男性ほど、家庭や仕事への満足度が上がっていました。

コロナ禍の前後で子育てや家族についての考え方や関わり方が変わったかを聞いたところ、「昼食を一緒に食べたり、子どもと遊んだりする時間が一気に増えた。私が家事をする時間も長くなった」として、妻も喜んでいるという回答が寄せられました。「子育てに関わる時間が増えて大変さを実感し、出勤時なるべく早く帰ろうと思うようになった」といった回答もありました。

コロナ禍前、長時間労働など働き方の問題で、家族に関わりたいけれど関われない、という人は多くいたと思います。半ば強制的にですが、在宅勤務ができるようになったのは、こうした男性にとって良い機会になったのではないのでしょうか。

ただ、この調査はあくまで男性の自己報告に基づいており、夫婦間で認識にずれがある可能性があります。実際は分担に偏りがあるのに、男性はやったつもりになっている、ということもあり得る。また、「自分のやり方でキッチンを使いたいので、夫が勝手に調理器具を移動させるのが嫌」というように、夫婦間の調整が必要なケースもあるのではないかと考えています。

認識のずれをどこに感じるかは、それぞれの性別役割分業意識の違いなども含めて、個人によってかなり異なります。ぶつかり合い、関係が崩れてしまうこともある。それを避けるには、ネガティブなことも、うれしいことも、お互いの気持ちを共有し、応答的にやりとりして受け止め合うのが理想的ですが、なかなか難しいとも感じています。

最近では社会状況が変わり、在宅勤務から出社に戻そうという企業も多くあります。子育ての大変さと喜びをともに味わい、思い出を共有する。在宅勤務で父親の関わりが増えたことが、夫婦の関係にうまく働いた家庭にとっては、元に戻ってしまうのはとても残念なことです。そうした経験者に「働き方を変えていくべきだ」と声を上げてもらいたいと思います。

一方で、家族だけに様々なものを任せすぎている社会には問題を感じています。「家族」

という枠組みの中に閉じ込められ妻子が暴力を振るわれたり、子どもが給食で食いつないだりしている家庭もある。国や社会でもっと子育てなどのケアの役割を分担していく必要があります。

ケアはスキルがなくてもできる、無償労働であるという前提を変える必要があるでしょう。(聞き手・富田洸平)

出典：平井美佳「父親の家事・育児への関わり コロナ禍でどう変わった？」
(朝日新聞 2023年6月25日)

- (1) 本文の調査から、コロナ禍で父親が家事や育児にどう関わるようになったといえるか、要約しなさい。(300字以内)
- (2) 日本の父親の家庭への関与や働き方に関してどのような課題があるか、そしてそれを解決するためには何が必要かを、本文と関わらせて記述しなさい。(500字以内)

(第 2 時限 : 90 分)

(2024 年 2 月実施)

2024 年度人間科学研究科入学試験問題

博士課程前期課程

専 門

問題用紙 5 枚、解答用紙 7 枚

	ページ
問 1 「心理学共通」	2～5
問 2 「心理学専門 (心理学、心理学研究法)」	6
問 3 「臨床心理学専門 (心理療法、心理検査)」	7
問 4 「実践人間科学 (心理学をコアとする人間科学)」	8～9

解答する科目

【心理学領域】 公認心理師コース 一般コース	問 1 「心理学共通」、問 2 「心理学専門 (心理学、心理学研究法)」 の 2 問を解答すること
【臨床心理学領域】 公認心理師コース	問 1 「心理学共通」、問 3 「臨床心理学専門 (心理療法、心理検査)」 の 2 問を解答すること
【臨床心理学領域】 一般コース	問 3 「臨床心理学専門 (心理療法、心理検査)」を必ず解答し、 問 1 「心理学共通」、問 2 「心理学専門 (心理学、心理学研究法)」、 から 1 問を選択し、解答すること
【実践人間科学領域】 一般コース	問 4 「実践人間科学 (心理学をコアとする人間科学)」を必ず解答し、 問 1 「心理学共通」、問 2 「心理学専門 (心理学、心理学研究法)」、 問 3 「臨床心理学専門 (心理療法、心理検査)」から 1 問を選択し、 解答すること

注 意 事 項

1. 問題冊子は入試方式・領域・コース共通です。上記の方法に従って解答してください。
2. 配布された問題用紙、解答用紙のホッチキス留めは絶対に外さないでください。
3. 試験開始後、解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入してください。
4. 問題冊子、解答用紙はすべて回収します。
5. 3 問以上の解答、また指定以外の科目を解答した場合は、すべてを採点対象としません。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

問1 心理学共通

[A] 以下の各問いについて、解答を選択肢の中から1つ選びなさい。

(1) 学習に関する人名と概念の組み合わせとして、誤っているものを選びなさい。

1. Tolman, E. C. 認知地図
2. Thorndike, E. L. 効果の法則
3. Hull, C. L. 動因低減説
4. Timberlake, W. プリマックの原理

(2) 以下の a から c の推論形式を正しく表現している組み合わせを1から4の中から選びなさい。

- a. 「マッチを擦ると火が点く」という一般的規則と「マッチに火が点かない」という事実から、結論として「マッチを擦らなかった」を導く推論
- b. 「風邪をひくと咳が出る」という一般的規則と「彼は咳をした」という事実から、結論として「彼は風邪をひいている」を導く推論
- c. 「スズメには尺骨動脈がある」という事実から、結論として「トリには尺骨動脈がある」という一般的規則を導く推論

1. a=演繹、b=アブダクション、c=帰納
2. a=アブダクション、b=演繹、c=帰納
3. a=帰納、b=アブダクション、c=演繹
4. a=帰納、b=演繹、c=アブダクション

(3) 以下の中で、広義の「仮現運動」に相当しないものを選びなさい。

1. 移動運動
2. 運動残効
3. 誘導運動
4. ベータ運動

(4) 知能に関する記述として、適切なものを選択肢の中から1つ選びなさい。

1. Guilford, J. P.は、知能の多因子説を提唱した。
2. Thurstone, L. L.は、知能を一般因子と特殊因子に分けた。
3. Cattell, R. B.は、知能を流動性知能と結晶性知能に分けた。
4. Spearman, C.は、知能構造モデルを提唱した。

(5) Marcia, J. E. のアイデンティティ・ステータスに関する以下の文章の、空欄 A・B に当てはまる語句の組み合わせとして、より適切とされているものを選択肢の中から 1 つ選びなさい。

Marcia, J. E. は、(A) と(B)という 2 つの観点からアイデンティティ・ステータスを分類した。例えば、モラトリアムとは、(A)を経験しながらも、(B)のための模索をしている状態であると考えた。

	A	B
1.	危機	傾倒
2.	危機	達成
3.	拡散	傾倒
4.	拡散	達成

(6) 青年期(思春期)に関する用語の説明として、適切なものを選択肢の中から 1 つ選びなさい。

1. Gilligan, C.は、思春期の精神発達を第二の個体化過程と考えた。
2. Hall, G. S.は、青年期を疾風怒涛の時代と表現した。
3. Blos, P. は、青年期にある人を境界人と称した。
4. Kohlberg, L. は、青年期の心性を心理的離乳と称した。

(7) 説得的メッセージの送り手が自分を説得しようとしているとき、自身の態度や自由が脅かされたと感じて喚起される自由回復を目指す動機を選びなさい。

1. 心理的安全性
2. 存在脅威管理理論
3. 分配的公正
4. 心理的リアクタンス

(8) 感情の原因となる出来事を再解釈することで感情の生起そのものを調整する感情制御方略の一方略を選びなさい。

1. 気晴らし
2. 認知的再評価
3. 反応抑制
4. 反すう

(9) 他者の行動の内的帰属に関する対応推論モデルにおいて、観察された行為が行為者の属性に対応するかどうかを規定する要因として不適切なものを選びなさい。

1. 視覚的顕在性
2. 外的圧力の有無
3. 非共通効果の数
4. 社会的望ましさ

(10) 『トポロジー心理学の原理』を著し、「場の理論」を展開した研究者はだれか。

1. Seligman, M. E. P.
2. Julesz, B.
3. Lewin, K.
4. Hebb, D. O.

(11) 部屋の明るさはルクス (lx) という単位で表されるが、その測定されるものは何というか。

1. 明度
2. 輝度
3. 光度
4. 照度

(12) 心理学統計法的手法ではないものを選びなさい。

1. 回帰分析
2. 相関分析
3. 因子分析
4. 交流分析

(13) 体験過程の概念を提唱し、体験過程に直接触れる方法として Gendlin, E. T. が開発した手法はなにかを選びなさい。

1. サイコドラマ
2. 自律訓練法
3. フォーカシング
4. スクィグル法

(14) 統合失調症に特徴的で他の疾患に認めがたい一級症状を提唱したのはだれかを選びなさい。

1. Schneider, K.
2. Hecker, E.
3. Bleuler, E.
4. Kraepelin, E.

(15) 知能指数の範囲のうち、従来、軽度知的能力障害と分類されていたものはどれかを選びなさい。

1. 70-84
2. 50-69
3. 35-49
4. 20-34

[B] 以下の用語の中から任意の 5 個を選択し、それぞれ 50～100 字で意味をわかりやすく説明しなさい。解答欄の【 】に選択した用語を記入しなさい。順番は問わない。

- ・ 気分一致効果
- ・ 錐体（網膜の細胞）
- ・ 発達最近接領域
- ・ モロー反射
- ・ 制御焦点理論
- ・ 少数者影響
- ・ DSM
- ・ 第一種の誤り
- ・ 適応障害
- ・ ソーシャル・スキル・トレーニング

問 2 心理学専門 (心理学、心理学研究法)

以下の文章を読んで設問に答えなさい。

さまざまなストレスがストレスを与える影響を調べるために、150 人を対象にストレスとなると思われる 2 種類の要因と、ストレス尺度によるストレス度合いの測定を行い、その関係性について統計的に分析を行ったとする。この研究では、仕事量の多さや家事量の多さといった要因がストレスに大きな影響を及ぼしているという仮説を立てて調査を行った。

- (1) 統計学的検定における目的変数と説明変数とは何かを説明しなさい。そして、この研究における目的変数と説明変数とは何かについても具体的に説明しなさい。(150 字以内)
- (2) 統計学的検定における「有意確率」と「帰無仮説」、「対立仮説」とは何かについて説明しなさい。(150 字以内)
- (3) (2)の 3 つの用語(「有意確率」と「帰無仮説」、「対立仮説」)を用いて、この研究における仮説検証の考え方について説明しなさい。(150 字以内)
- (4) この研究でストレスとなると記述されている 2 種類の要因とストレス尺度との間にある因果関係を調べたいとする。さて、どのような統計学的な検定方法が有効であるといえるのか説明しなさい。(150 字以内)

問3 臨床心理学専門（心理療法、心理検査）

(1) 以下の文章を読み、①から⑤の（ ）にあてはまる言葉を記述しなさい。

心理アセスメントとは、臨床心理学的援助を必要とする事例について、その人格や状況、および規定因に関する情報を系統的に収集、分析し、その結果を総合して事例への介入方針を決定するための（ ① ）を生成することである。

定められた質問内容と順序に沿い面接を進めるが、面接者が必要と判断した場合には質問の追加や順序の変更など柔軟な進め方が可能な面接法を（ ② ）面接法と呼ぶ。

高次脳機能を評価するための検査であり、認知症診療においても重要な役割を果たす検査を（ ③ ）心理学的検査と呼ぶ。認知症のスクリーニング検査として代表的なものとしては、改訂（ ④ ）簡易知能評価スケールや Mini-Mental State Examination (MMSE) が知られている。

曖昧で抽象化された刺激を検査刺激として用いることにより、行動観察や内省によって直接観測することのできない人格の要素や構造様式、状況の知覚や認知過程などを理解する検査を（ ⑤ ）法と呼ぶ。

(2) 行動観察は実験観察法と自然観察法に分類できる。実験観察法について説明した上で、自然観察法に対する実験観察法の利点と欠点について述べなさい。(300字以内)

(3) 治療関係、すなわちカウンセラーとクライアントの関係に加えて、職場の上司と部下、教師と学生、友人や親密な関係、商取引の関係などの他の関係を持つことを多重関係と言う。この多重関係が問題となるのはなぜか、説明しなさい。(400字以内)

問 4 実践人間科学専門（心理学をコアとする人間科学）

以下の文章は、「無意識のバイアス - Unconscious Bias - を知っていますか?」の具体例を述べたものの一部です（略した例があるので連番になっていない）。問いに答えなさい。

例 1：アメリカのオーケストラ団員採用にブラインド(目隠し)・オーディション

1970 年代から 80 年代、アメリカの有名音楽学校卒業生の女性割合は、弦楽器、管楽器ではほぼ 5 割、他楽器を含めた平均でも 4 割を超えていました。それにも関わらず、オーケストラの女性奏者割合は 5%から 10%でした。さすがにその状況を改善しようという機運が高まり、いくつかのオーケストラで、団員の採用を「公募制」とし、応募者と審査員の間にはスクリーンを置く「ブラインド・オーディション方式」が取り入れられるようになったのです。

その結果、2000 年になると、一次審査をクリアする女性の割合が 5 割上昇し、最終審査で採用になる割合も以前の数倍に上がりました。現在、アメリカのトップオーケストラの女性奏者の割合は 25%－46%になっています。

C. Goldin and C. Rouse (2000) *American Economic Review* 90, 715-741.

例 2：エミリーやグレッグの方がラキーシャやジャーナルよりも雇用の機会がはるかに高い!?

これはシカゴ大学大学院生の学位論文の研究で、有名なものです。氏名欄には、白人に固有の名前(エミリーやグレッグ) か、アフリカ系アメリカ人に固有の名前(ラキーシャやジャーナル) の名前、技能欄には「高い」または「平均的」の 2 段階レベル、それ以外は全く同じ内容の 5000 通の履歴書を作り雇用主に送りました。その結果、雇用主が面接を希望したのは、白人の名前の履歴書に対して平均 9.7 名、アフリカ系アメリカ人名の履歴書に対して平均 6.5 名、その比はおおよそ 1.5 倍となりました。白人の名前の履歴書に対して 5 割増しの面接希望があったということになります。名前だけで判断して雇用を進めるバイアスの典型例です。

M. Bertrand and S. Mullainthan (2004) *University of Chicago Graduate School of Business, NBER and CEPR/MIT and NBER.*

例 3：Motherhood Penalty? (母親であるゆえのペナルティ?)

能力的にも学歴も職歴も全く同じレベルで、子供の有無だけが違う管理職候補者の評価をした際、父親の方が母親より有能とみなされ、初任給の額も高い。子供のいない女性は父親あるいは子供の無い男性と同レベルかそれ以上の評価を得る傾向にあり、推薦される割合も母親の 2 倍近い。

女性だからというわけではなく、「母親だから」とみなす「無意識のバイアス」があることを示しています。なお、評価結果に評価者のジェンダーによる違いはみられませんでした。

S. J. Correll, et al. (2007) *Am J. Sociology*, 112, 1297-1339.

(中略)

例 5：選ぶ側に女性がいないければ、女性が選ばれにくい

これは日本の例です。理工系学会の中でも比較的女性割合の高いライフサイエンス系 7 学会 Visibility 調査からわかってきたことです。

年会のワークショップやシンポジウムの招待講演者の女性割合とオーガナイザーの女性割合を調べたところ、オーガナイザーが全員男性の場合、女性講演者の割合は 10%であったが、オーガナイザーに女性がいった場合、32%に上がったのです。この 32%という値は、学会の女性会員割合にほぼ匹敵します。選ぶ側に女性がいないければ、女性が選ばれにくいという典型例のひとつです。

M. K. Homma, et al. (2013) *Genes to Cells*, 18, 529-532.

出典：「無意識のバイアス-Unconscious Bias -を知っていますか？」男女共同参画学協会連絡会著 (2017)、2-5 ページから引用。

ホームページ：https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2019/UnconsciousBias_leaflet.pdf

https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2019/UnconsciousBias_leaflet_eng.pdf

(1) アンコンシャス・バイアスを考えることは実践人間科学の研究にとってどのような意義を持つと考えるか記述しなさい。(600 字以内)

問題は回収します

(第1時限：60分)

(2024年2月実施)

2024年度人間科学研究科入学試験問題 博士課程前期課程

外国語

問題用紙3枚、解答用紙2枚

<一般入学試験>

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

次の英文を読み、下の問題に答えなさい。

Look in the mirror and who do you see? In all likelihood, a competent, sincere individual, who is willing to exert effort to meet personal and professional goals. However, do others see you the same way? While we often tend to embellish our self-impressions and often misconstrue our abilities (Kruger & Dunning, 1999), humans across cultures are generally good at assessing what constitutes beauty. One alarming reality is that many employment and business decisions are made based on appearance, in stark contrast to the goals of diversity, equity, and inclusion (DEI) initiatives in many organizations where employees and leaders must be DEI certified before assuming any leadership role.

Numerous studies suggest that attractive individuals have employment advantages including landing better jobs, earning higher pay, and receiving more favorable performance evaluations than less-attractive peers. It is also important to acknowledge that attractive individuals may experience a "pretty penalty," whereby attractive people garner harsher criticism and negative biases when they fail to meet expectations (Wilson & Eckel, 2006). Additionally, the subtle effects of feeling attractive have personal and perceptible drawbacks such as increased confidence and perceived power, which can result in others believing that attractive individuals are more prone to narcissism.

It is no secret that physical attractiveness can positively influence the way people are judged. Studies have shown that attractive individuals are often perceived as more competent, sociable, and trustworthy, leading to an increased likelihood of landing job offers (Hosoda et al., 2003). Employers may unconsciously associate attractiveness with other desirable traits, leading them to prefer attractive candidates over others.

Attractive individuals also enjoy financial benefits. Numerous studies have found a positive correlation between physical attractiveness and income levels (Judge et al., 2009). Employers, consciously or unconsciously, reward attractive employees with higher salaries, promotions, and better benefits. This phenomenon, often referred to as the "beauty premium," highlights the economic advantages attractive individuals may experience in the job market.

Attractive individuals may receive better performance ratings due to "the halo effect," a cognitive bias in which positive impressions based on one trait (in this case, physical attractiveness) influence overall perceptions. Colleagues and managers may overlook minor shortcomings or attribute them to external factors, providing attractive individuals with a more favorable evaluation. This bias can lead to increased opportunities for growth and advancement in the workplace, sometimes at the expense of less-attractive people who make greater or equal contributions to organizational success.

While physical attractiveness offers certain advantages, there is a flip side when attractive individuals fail to meet the high expectations associated with their looks. Sometimes, they may face harsher criticism and negative repercussions. This penalty stems from the belief that attractive individuals have an obligation to maintain their appearance and perform exceptionally in all areas of

life. Failing to do so can result in heightened scrutiny and disapproval from those in a position to evaluate a pretty face.

Attractive individuals may face even more scrutiny from individuals of the same sex. Studies reveal that both men and women tend to evaluate attractive individuals of their own gender more harshly (Paustian-Underdahl, et al., 2016). This critical behavior may stem from feelings of competition or envy, leading to less favorable treatment of attractive peers. Consequently, attractive individuals may experience hurdles in building positive relationships within their own gender. Consider that the “penalty” phenomenon becomes even more contentious as the world becomes increasingly diversified based on cultural change and gender fluidity*¹.

Attractive individuals have advantages, but their physical prowess*² may be responsible for inflated self-perceptions of confidence, extraversion, and socialization ability. Ego inflation, combined with an attractive appearance, may have subtle psychological effects that impact how they conduct themselves at work. Perceived physical attractiveness can promote a sense of power, suggesting to an individual that they should command attention and be able to influence others. However, this sense of power can also lead to limited self-awareness, as attractive individuals may become oblivious to their own flaws and shortcomings (Tu et al., 2022).

While not all attractive individuals are narcissistic, some studies suggest a link between physical attractiveness and narcissistic personality traits. The constant positive reinforcement received from society due to their appearance can lead to inflated self-esteem and an excessive focus on personal image. This potential downside of being attractive should be acknowledged, as narcissism can negatively impact interpersonal relationships and hinder professional growth.

In summary, physical attractiveness undeniably plays a role in employment, providing individuals with certain advantages such as increased job opportunities, higher pay, and better evaluations. However, we must also recognize the potential drawbacks, including harsher criticism, same-sex negative bias, limited self-awareness, and the risk of developing narcissistic traits. By considering these findings in the aggregate, we can work toward creating a more equitable and merit-based*³ approach to hiring and evaluating individuals, placing more emphasis on skills, qualifications, and character rather than superficial factors like physical appearance. In turn, a more objective focus on what we perceive as valuable supports the critical agenda of creating a more just, equitable, and inclusive world.

*1 gender fluidity:性別の流動性・非固定性

*2 physical prowess:身体能力

*3 merit-based:実力主義

Hoffman, B. (2023). Do prettier people get more job offers? Research suggests good looks promote career success, but there are liabilities. *Psychology Today*, Retrieved from <https://www.psychologytoday.com/intl/blog/motivate/202306/do-prettier-people-get-more-job-offers> から改変して出題

問1 プリティ・ペナルティとはどのような現象であり、それは同性間・異性間によって異なるのか。文中の例を使って 300 字以内で説明しなさい。

問2 外見と自己認識・自己像はどのような関係にあるか。300 字以内で説明しなさい。

問3 雇用場面において、外見的魅力の影響を排除するためにはどのような方策をとるべきであると、本論は述べているか。300 字以内で説明しなさい。

問題は回収します

(第1時限：60分)

(2024年2月実施)

2024年度人間科学研究科入学試験問題 博士課程前期課程

小論文

問題用紙2枚、解答用紙3枚

<社会人入学試験>

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

ケトレーの統計学は二つの潮流を生み出します。その一つは数理統計学です。ケトレーの統計学の一つの側面は、確率論にもとづいた研究方法でした。統計学史では、それをゴルトンとピアソンが受け継いだとされています。そのゴルトンとピアソンを端緒に展開したのが、数理統計学であり、優生学でした。

(中略) 優生学は、人を生物学的に数学的に定量化できるという研究が土台にあり、その研究は生物測定学 (Biometry) と呼ばれていました。この生物測定学は、もともとはケトレーの研究方法から完成させたものとされてきました。

生物測定学では生命現象のさまざまな「測定」を行い、生物学的な見地から積極的に人の評価を行っていました。『生物学講座』では、生物測定学が学問的に認められるようになったのは 19 世紀末葉で、生みの親は優生学を生み出したゴルトンとピアソンの二人と記されており、「生物界の現象につき、その数量的方面を精密に測定し、且つこれに正確綿密な数学的解析を下すものである」と説明されていました。

数理統計学は、その「測定」の方法として要請されました。数理統計学とは、回帰分析や相関係数といった計算が出てくる学問で、いまや科学全体にとって欠かせない研究方法として定着しています。その数理統計学は、もともとゴルトンやピアソンが発明したものであり、優生学の有効性を説明するための手立てとして生み出された背景をもちます。実際にこの部分は『優生学講座』でもかなり重視され、シリーズの初回から登場していました。

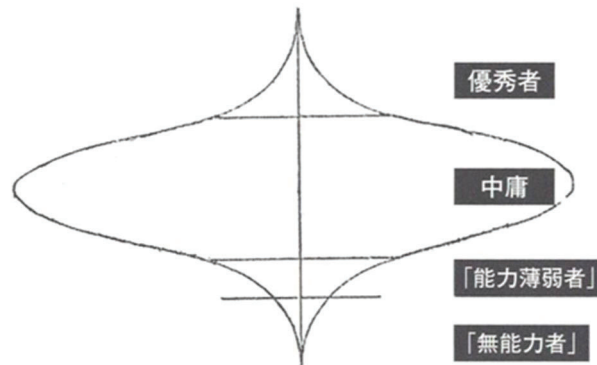
こうした方法を手掛かりに、ゴルトンやピアソンらは、「才能」や「知識」を測定する試みや、遺伝との関係を実証的に検証する方法を構想していました。その方法として、「才能」や「知能」を軸に人口分布をグラフ化すると、ベル型の正規分布が示されると主張しました。その正規分布を前提にしながら、優生学ではその下位に位置づいた人を「精神薄弱者」(今日の知的障害者) や「劣等者」、「無能力者」などと位置づけ、「退化」の典型としていったと言えます。

図 1 は、それをある種わかりやすく示したのと言えます。能力に応じた人口の分布を描き、順番に「優秀者」「中庸」「能力薄弱者」「無能力者」のようにランクづけがなされています。ゴルトンやピアソンは、この序列化を通じて、「才能」や「知能」が遺伝することを明らかにする方法を構想しました。「才能」や「知能」は遺伝するものであり、その「衰退」の兆候を診断して予防することが、優生学の目的でもありました。その「衰退」の兆候を、数理統計学を用いて測定しようとしたと言えます。

優生学ではこの下位数%にある「無能力者」を特定し、その人たちを「剪除」してしまえば、次の世代はグラフ全体がやや上へとスライドしていく、つまり、下位の者を切っていけば、遺伝を通して将来世代では「才能」や「知能」の値が徐々に高くなり、「民族」が「改善」していくと考えていたのです。

優生学では、本来複雑であるはずの人の「才能」や「知能」に正規分布の人口構成を措定、

あるいは断定しながら、その平均から外れた人たちを「異常者」だとして、その人たちを当時の言葉で「精神薄弱者」と言って軽蔑していった思考や経緯が見えてきます。



第7圖 民族構成員の異質構成

図1 人口分布と「無能力者」

*大行慶雄『国民優生と民族衛生』ロゴス書店、1949年、57頁の図を加筆修正した

出典：藤井 渉『ソーシャルワーカーのための反『優生学講座』——「役立たず」の歴史に抗う福祉実践』現代書館、2022年、pp. 156-159

注：本文中の注釈は省略した。

- (1) 本文の内容を要約しなさい。(300字以内)
- (2) 統計学を用いて人を評価することの課題とそれに対するあなたの考えを、本文と関わらせて記述しなさい。(900字以内)

問題は回収します

(第1時限：60分)

(2024年2月実施)

2024年度人間科学研究科入学試験問題 博士課程前期課程

小論文

問題用紙2枚、解答用紙2枚

＜外国人留学生入学試験＞

※ 解答用紙すべてに受験番号と氏名を記入しなさい。

受験番号	志望領域	志望コース (該当コースに○)	氏名
		公認心理師コース ・ 一般コース	

以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

ケトラーの統計学は二つの潮流を生み出します。その一つは数理統計学です。ケトラーの統計学の一つの側面は、確率論にもとづいた研究方法でした。統計学史では、それをゴルトンとピアソンが受け継いだとされています。そのゴルトンとピアソンを端緒に展開したのが、数理統計学であり、優生学でした。

(中略) 優生学は、人を生物学的に数学的に定量化できるという研究が土台にあり、その研究は生物測定学 (Biometry) と呼ばれていました。この生物測定学は、もともとはケトラーの研究方法から完成させたものとされてきました。

生物測定学では生命現象のさまざまな「測定」を行い、生物学的な見地から積極的に人の評価を行っていました。『生物学講座』では、生物測定学が学問的に認められるようになったのは 19 世紀末葉で、生みの親は優生学を生み出したゴルトンとピアソンの二人と記されており、「生物界の現象につき、その数量的方面を精密に測定し、且つこれに正確綿密な数学的解析を下すものである」と説明されていました。

数理統計学は、その「測定」の方法として要請されました。数理統計学とは、回帰分析や相関係数といった計算が出てくる学問で、いまや科学全体にとって欠かせない研究方法として定着しています。その数理統計学は、もともとゴルトンやピアソンが発明したものであり、優生学の有効性を説明するための手立てとして生み出された背景をもちます。実際にこの部分は『優生学講座』でもかなり重視され、シリーズの初回から登場していました。

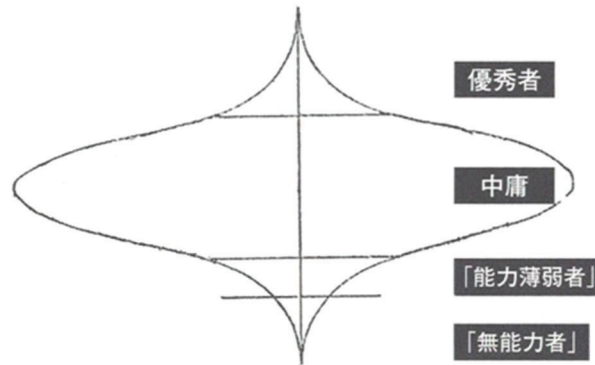
こうした方法を手掛かりに、ゴルトンやピアソンらは、「才能」や「知識」を測定する試みや、遺伝との関係を実証的に検証する方法を構想していました。その方法として、「才能」や「知能」を軸に人口分布をグラフ化すると、ベル型の正規分布が示されると主張しました。その正規分布を前提にしながら、優生学ではその下位に位置づいた人を「精神薄弱者」(今日の知的障害者) や「劣等者」、「無能力者」などと位置づけ、「退化」の典型としていったと言えます。

図 1 は、それをある種わかりやすく示したのと言えます。能力に応じた人口の分布を描き、順番に「優秀者」「中庸」「能力薄弱者」「無能力者」のようにランクづけがなされています。ゴルトンやピアソンは、この序列化を通じて、「才能」や「知能」が遺伝することを明らかにする方法を構想しました。「才能」や「知能」は遺伝するものであり、その「衰退」の兆候を診断して予防することが、優生学の目的でもありました。その「衰退」の兆候を、数理統計学を用いて測定しようとしたと言えます。

優生学ではこの下位数%にある「無能力者」を特定し、その人たちを「剪除」してしまえば、次の世代はグラフ全体がやや上へとスライドしていく、つまり、下位の者を切っていけば、遺伝を通して将来世代では「才能」や「知能」の値が徐々に高くなり、「民族」が「改善」していくと考えていたのです。

優生学では、本来複雑であるはずの人の「才能」や「知能」に正規分布の人口構成を措定、

あるいは断定しながら、その平均から外れた人たちを「異常者」だとして、その人たちを当時の言葉で「精神薄弱者」と言って軽蔑していった思考や経緯が見えてきます。



第7圖 民族構成員の異質構成

図1 人口分布と「無能力者」

*大行慶雄『国民優生と民族衛生』ロゴス書店、1949年、57頁の図を加筆修正した

出典：藤井 渉『ソーシャルワーカーのための反『優生学講座』——「役立たず」の歴史に抗う福祉実践』現代書館、2022年、pp.156-159

注：本文中の注釈は省略した。

- (1) 本文の内容を要約しなさい。(300字以内)
- (2) 統計学を用いて人を評価することの課題とそれに対するあなたの考えを、本文と関わらせて記述しなさい。(500字以内)